

文-77

Vてくれます

N1	は/が	N2	に	Vて	くれます
----	-----	----	---	----	------

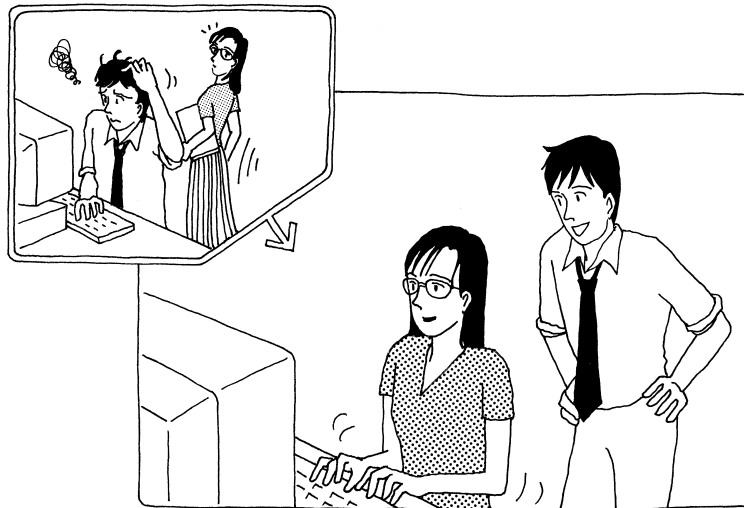
N1 : Vの動作主

N2 : Vの動作の受け手

基本

例文

- ① ^{やまもと}山本さんは、よく、わたしたちに^{りょうり つく}料理を作ってくれます。
- ② ^{かぜ がっこう やす}風邪で学校を休んだら、^{つぎ ひ なかた}次の日、中田さんが^みノートを見せてくれました。
- ③ ^{かさ}傘がなくて^{こま}困っていたとき、^{なかやま か}中山さんが貸してくれました。
- ④ ^{なかた}中田さんは、わたしの^{さいふ}財布を^{とど}ひろって届けてくれました。
- ⑤ ^{うご}コンピュータが動かなくなって^{こま}困っていたら、^{なかやま なお}中山さんが直してくれました。



例文⑤

- ⑥ A : ^{やまもと}山本さん、この間送ったわたしのメール、^{あいだおく}読んでくれましたか。
B : えっ、いつ送ったんですか。^{あく}届いていませんよ。
- ⑦ ^{にもつ も}荷物を持ってくれて、ありがとう。
- ⑧ ^{せんしゅう}先週、^{なかやま}中山さんはわたしを^{しょくじ}食事に^{しょうたい}招待してくれました。

⑨ A : 電車でんしゃに間まに合あいましたか。

B : はい。山田やまださんが駅えきまで車くるまで送おくってくれましたから。

解説

A. N1がN2の利益りえきになる行為こうい、動作どうさをするあらわことを表す。(例文①～⑨)

B. N1は話し手はなにならない。

C. N2はたいてい話し手はな、または話し手はなを含む人ひとたちなので、「N2に」は省略しょうりゃくされることが多い。
(例文②③⑤⑦⑨)

D. 「N2に」が「N2を」「N2の」になることがある。

「N1は/が N2の N3を Vてくれます」(例文④⑥⑦)

(N3はN2の持ち物もや体からだの部分ぶぶん)

「N1は/が N2を Vてくれます」(例文⑧)

(N2はVの動作どうさの対象たいしょう)

先生へ

「N2を」となる場合、Vは「案内あんないする、選ぶえらぶ、起こすお、送るおく、しかるしょうたい、招待そだする、育てるたす、助けるて、手て伝つたう、ほめるみ、見つけるむか、迎えるよ、呼ぶどうし」などの動詞。

N2が話し手はなのウチての関係かんけいの人ひと(p.276参照)になることがあるが、ここでは話し手はなまたは話し手はなを含むグループぐるーぷに限かぎって練習れんしゅうしたほうほうが混乱こんらんしない。

例 山田やまださんは、妹いもうとに日本語にほんごを教おしえてくれました。

Vには無意志動詞むいしどうしを使うつかこともあるが、ここでは意志動詞いしどうしだけで練習れんしゅうしたほうほうがわかりやすい。

例 ずっと雨あめで、なかなか晴はれてくれませんか。

話し手はなの利益りえきとなる行為こういについて述つべるとき、「Vてくれます」を使つかわず、客観きゃっかんてき的な事実じじつを述のべる

「Vます」を使つかってしまう誤用ごようが多い。「Vます」では、行為こういをした人ひとに対して失礼しつれいな表現ひょうげんになるので、注意ちゅういさせること。

例 山田やまださんはいろいろな料理りょうりを作つくりました。(客観きゃっかんてき的な事実じじつ)

山田やまださんはいろいろな料理りょうりを作つくってくれました。(感謝かんしゃの気持ちきもを含ふくんでいる)

「Vてくれますか」は命令めいれいに近い依頼いちがいを述のべるときに使つかわれるので、いっしょに練習れんしゅうしないほうがよい。

「Vてくれます」を正確せいかくに使つかえるようにするためには、「ウチ・ソト」の関係かんけいの理解りかいが必要ひつようである。

(p.276参照さんしやう)

【関連項目】

活-01 Vて形

文-76 Vてもらいます

【「れんしゅう編」の練習】

19-5 お礼のカード

19-6 山田さんへの手紙

19-7 ホームステイの報告